

23 & Me: A Christmas gift from the husband.

23 & Me : 夫からのクリスマスプレゼント

Interviewee

Mr. Eric Mobley

Q.自己紹介をお願いします。

現在 28 歳で、アメリカのケンタッキー州ローウェルに住んでいる。全米のオンライン大学で高等教育のアドミッション（入学試験）に携わっている。夫と結婚して 6 年になり、犬を飼っている。

Q. 精子ドナーから生まれたことを知った時の衝撃をどのように表すことができますか？

2019 年のクリスマスに、夫から 23&Me キットを贈られた。検査を受ける前、自分がドナーから生まれたことなど全く思いもよらなかった。自分の祖先に対する好奇心から検査を受けたが、遠縁の親族などを探そうとは特に思っていなかった。

2020 年 1 月 7 日、工作中に遺伝子検査の結果を受け取った。その結果から、自分には異母兄弟がいることがわかり、それが偶然にも高校の同級生だった。その人と血縁関係があることを知って驚いた。その人に連絡を取った。彼は、自分が精子提供で生まれたことを子供の頃から知っていたが、自分は父親が実の父親ではないことを知らなかった。この偶然に発見した情報が、自分を苦しめた。その日、仕事に集中できないので早退した。

退社後、実家に直行し、母親と対面した。その時初めて、母親は自分が精子提供で妊娠したことを明かした。その頃、父親は肝臓がんで闘病中だったこともあり、状況はもっと厳しかった。

父親の体調が悪かったこともあり、父親と精子提供について話す機会がなかった。もっと話す時間があればよかったけれど、パンデミックが発生し、父親の病状が悪化したため、距離を置く必要があった。父親は 2020 年 5 月に他界した。

その後、母親と話し合う時間を持った。二人は今、お互いに礼儀正しくして、おおむね問題ない関係だ。精子提供の話を持ち出すのは気が引けるし、母親はもっと早く言っておけばよかったと罪悪感を抱いているようだ。精子提供で生まれたことを知ったこと、父親の死のトラウマを解消するために、2 年間セラピーに通った。父親は親友だったと思っている。父親は 3 回結婚しているの、年上の異母兄妹が複数いる。一番年の近い兄（12 歳上）も精子提供で生まれていて、母親は父親の 2 番目の妻だ（自分の母親は三番目の妻）。

ドナーから生まれたことが分かってから、何人かの半きょうだいを見つけた。同じドナーから生まれた兄弟が 2 人、姉妹が 3 人いる。長男は今年 30 歳、次男は 28 歳で、年齢も近い。2 人はケンタッキー州に住んでいて、残りはアメリカ全土に散らばっている。

半きょうだいからドナーを知り、何度か彼に連絡を取った。彼は自分の家族を持っていて、自分に対してよそよそしい。2021 年 1 月に一度だけ、ランチのために直接会ったことがある。彼は優しくだったが、プライバシーを要求した。そして、これ以上関わりたくないと言われた。ドナーに対して、時間を割いて会ってくれたことに感謝している。ドナーは

自分と同じ町に住んでいて、彼にとって自分は不安を誘発する存在だ。

自分は、起こったことすべてを多少なりとも受け入れるよう努力してきた。

Q. 真実を知った後、家族との関係は変わりましたか？ どのように？ 育ての父親のことは、今でも父親と感じていますか？

しばらくの間、父親を他人として見ていた。自分を育ててくれた人であり、親しい関係であったにもかかわらず、最初はそう感じていた。この感覚は、父親が体調を崩してほとんど話せなくなるまで、数カ月間続いた。自分を育ててくれた父親を「他人」と思うのは、とても不思議な感覚だった。

それは、母親との関係にも影響を及ぼしている。一緒に過ごしながらも、母親に対しては常に裏切られたという感覚がある。何が起きたのか、もっと早く教えるべきだったのにそれをしなかった、母親には責任があると感じている。その結果、二人の関係はギクシャクしている。夏休みに一緒に休暇を過ごしたが、母親と一緒にいても楽しくないような気がした。

Q. もし、両親が小さい頃からドナーから生まれたことを教えてくれていたなら、その事実に向き合う適応していたと思いますか？ ドナーに対する興味関心はどうなっていたと思いますか？

もし小さい頃から教えられていれば、間違いなく、その知識に順応していただろうと考えている。理想を言えば、18歳のときに教えてほしかった。半姉妹の一人は、16歳のときに告知され、今でも苦労しているが、自分よりはうまく対処している。彼女は、両親から直接告げられた。だから遺伝子検査で知ったのではな

い。彼女は、半兄弟と同じ学校に通っていたこともある。

たとえもっと早い時期にドナーの存在を知っても、ドナーと会い、彼を知りたいと思ったはずだ。しかし、もっと後で知った場合、その熱意の程度は変わっていたかもしれない。

Q. メンタルヘルスに影響しましたか。回復するためには、何が必要ですか？ どのくらい時間が必要でしょうか？

精子提供で生まれたことがわかり、それは確実に精神状態に影響を及ぼした。(パンデミックもあったが) しばらくは、何もしたくない、どこにも行きたくないというくらいに落ち込んでいた。不安になって、仕事に集中できなくなった。

その後、精神状態は確実に良くなってきている。夫に多くの注意を払うことに専念し、また犬を飼い、それが大きな支えになっている。健康で活動的であることに力を注ぎ、体調を整え、ジムに通うようになった。

今、ケンタッキー州やその他の地域にいる半きょうだいと一緒に過ごしている。先月は、半きょうだいの一人とその家族を訪ねて、夫と一緒にテキサスへ行った。この半きょうだいには2人のお母さんがいる。

Q. 小さい頃、家族の中で、父親に似ている、母親に似ているなどと、話をした記憶はありますか？ 家庭の中に、何か緊張や違和感を感じていましたか？

思春期を迎えて足の毛が生えてきた頃を思い出す。父親には足の毛が生えていなかったの、ある時、何気なくそのことを父親に話した。父は、「母方の遺伝だろう」と答えた。この説明に疑問を持つことはなかった。

母親から、自分が人工授精で妊娠したことを聞かされていた。その時、父親の精子を使ったのだと信じて疑わなかった。それが、この事実を知ったときにショックを受けた大きな理由のひとつだ。

自分は、母親にもドナーにもよく似ている。精子提供で生まれたことを知るまでは、説明のつかない緊張感はなく、疑うこともなかった。

Q. 人の性格や能力の形成にとって、環境と遺伝の役割は？ どのように感じていますか？

いろいろなことが遺伝していると考えている。ドナーが大学で美術史を専攻していたことがわかった。自分も人文科学を専攻した。半きょうだいは皆、歴史、美術、芸術史、演劇に興味がある。両親が大学教育を受けていないため、これは遺伝的なものだと考えている。父親は高校も出ていない。

育ちの要素という点では、確かに育ての親からいろいろなことを吸収できると考えている。例えば、自分はとても社会的で、誰とでも気軽に話すことができる。それは両親と同じだ。

Q. ドナーきょうだいと会ったときのことを教えてください。似ているところがありますか？ 特別な絆やつながりがありますか？ どのような存在ですか？

ドナーの半きょうだいとの間に色々な共通点を見出した。皆、同じ年頃で、大まかな趣味も同じ。例えば、飲みに行くとか、食事に行くとか、コンサートに行くとか。しかし休暇をどこで過ごすかなど、違うところもある。

半きょうだいたちとは、みんなとても仲がいい。よく話をしたり、時間があれば会ったりしている。「兄弟」「姉妹」と呼びあっている。半きょうだいの2人

は近くに住んでいて、会いたい時に会うことができる。他の2人も会ったことがある。また、新たに見つけた半姉妹も、数週間後に会いに来る予定だ。自分たちの間には間違いなく絆があると感じている。グループ・テキスト・チェーンがあり、お互いに支え合っている。とても心強い。

育った家庭の兄弟姉妹とは、かなりの年齢差があるため、親密さに欠けるところがあった。一番上の兄弟はもうすぐ60歳になり、一番下の兄弟はまだ12歳も年上だ。そのため、彼らとの間に共通の興味はあまりない。一緒に育った姉妹のことは大好きだが、彼女たちは50代。

Q. ドナーとあったときのことを教えてください。似ているところはありましたか？ すぐに打ち解けましたか？ 特別な絆やつながりがありますか？

二人が出会ったとき、ドナーは自分と連絡を取り続けると信じ込ませていた。昨年のある日、ドナーとメール交換をしていた時、初めて彼はこれ以上連絡を取るのをやめたいと言ってきた。自分は彼の意思を尊重した。

それは仕事の合間の即席のミーティングだった。直前のミーティングであったため、緊張し、圧倒された。初デートのようなもので、「この人は僕を気に入ってくれるだろうか」と心配になった。ドナーは質問に答えてくれたが、自分はあまり直接的な質問をしなかった。もっと一般的な、自分たちの興味などについて話した。ドナーは、2年間、2週間ごとに提供していたことを話した。

ドナーに会ったとき、特別な絆を感じた。大学を卒業し、人文科学を専攻していたことを話した。実は、二人は同じ大学に通っていた。また、芸術や旅行など、共通の趣味の話もした。二人の間に

多くの共通点があることを感じた。彼はとても誇り高い父親のように見えたので、自分の子供にもそのように振舞ってほしいと願っている。ドナーには4人の息子がいる。そのうちの1人にコンタクトを取り、会った。彼と最初は問題なかったが、しばらくして仲違いしてしまい、今は連絡を取っていない。

もしドナーが見つからなかったら、今もドナーを探し続けていただろうと考えている。今でも定期的に送られてくる23&Meのメールに目を通し、新しい兄弟姉妹のマッチングがないかどうか確認している。大抵は、いとこだけなんだけれど。

母親がドナーについて知っていたのは、彼が地元の大学の医学生であることだけだった。

Q. パートナーの男性と一緒に、将来子供を育てたいですか？ Yes の場合、養子を希望しますか？ 代理出産ですか？ 遺伝的つながりがある親子関係と、ない親子関係、それぞれどんな advantage と disadvantage があると思いますか？

自分の子供を持ちたいとは思わない。自分が精子提供で生まれたことを知る前から、夫と二人でそう決めていた。犬を飼って可愛がっている。

自分に23&Meをプレゼントしたのは夫なので、夫は最初、この状況に罪悪感を覚えたらしい。しかし、「あなたのせいではない」と言い、夫を安心させた。自分の体験を目の前にして、夫は瞠目したが、とてもサポートティブで、一緒にテキサスまで半兄弟の家族に会いに行ったこともある。

Q. DC は認められますか。

全体として、親が子供に真実を伝える限り、Donor Conception(DC)には賛成。不妊の問題を抱えていたり、親になりたいと思っても相手がいなかったりする友人もいるので、この方法を支持するが、今はもう1980年代や1990年代の時代ではないので、子どもには真実を伝えなければならない。ドナーのプライバシーは尊重するが、匿名は難しいと考えている。自分が経験したようなネガティブな体験を他の人にはしてほしくない。

Q. グループに参加していますか？

Facebookで"We Are Donor Conceived"というグループを知っている。これは、自分の話や半きょうだいの写真などを公開するのに最適な場所。サポートが必要な場合は、ここが良い発散の場所になると思う。また、ポッドキャストも聴いている。

Q. 自分の経験を語ることにはどのような意味がありますか？

自分の経験を話すことで、認識を広めることができると考えている。商業的な遺伝子検査の結果、自分がDCからの出生者であることを知るのは、まだ新しい概念であり、そのショックは自分の心に大きな傷を残した。両親との絆は、真実を知ったことによって崩れ去った。もし、18歳くらいのときに両親が教えてくれたら、もっと違った見方ができただろうと思う。親子関係に影響を与えるので、子どもに隠し事をしないことが大切だ。このことを理解してほしいという思いから、自分の体験を話している。自分は母親に対してずっと裏切られたという思いがあり、同じような経験を他の人にしてほしくないという思いがある。

DCのことが分かってから、自分の経験について YouTube にビデオを投稿している。また、主に不妊の問題に関連するポッドキャスト「I Want To Put A Baby In You」にも出演している。また、高齢の親を持つ人たちのためのパネルにも出演した（彼らはDCの人の視点を求めている）。ポッドキャストでネガティブなフィードバックを受けたことはないが、YouTube のビデオには、「ご両親はあなたを愛しているし、生まれてきてほしかった」というようなネガティブなコメントがあった。このような人たちは的外れなことを言っていると思う。

半きょうだいとの関係にはとても感謝している。一緒に育った兄弟姉妹とは、年齢差があるため、本当のきょうだいではないような気がすることもあった。今は、年齢が近く、共通の趣味を持つ複数のきょうだいがいる。そのことに感謝している。

自分の物語を『アナと雪の女王』のエルサや『ハリー・ポッター』のようなポップカルチャーの登場人物に重ね合わせることがある。彼らは家族に関する衝撃的な事実を乗り越え、成功を収めた。これは、自分にとって良い対処法になっている。

(2022年10月)

Mr. Eric Mobley

現在 28 歳で、アメリカのケンタッキー州ローウェルに住んでいる。夫から贈られた DNA 検査で、2020 年に精子提供で生まれたことを知る。大きなショックを受けるが、ドナーとドナーきょうだいに会い、ドナーきょうだいたちとの関係からエンパワーされている。家族は夫と犬。

自分の経験について YouTube にビデオを投稿している。また、主に不妊の問題に関連するポッドキャスト「I Want To Put A Baby In You」にも出演している。

メディア:

[I found out I was donor conceived from 23&me - YouTube](#)

[Episode 152: DNA Test Surprise Part 2 – Eric Mobley — I Want To Put A Baby In You](#)